

## 論文審査の結果の要旨

報告番号	甲 先 第 <b>248</b> 号	氏 名	森 康成
審査委員	主査 馬場 俊孝 副査 上月 康則 副査 中野 晋		
学位論文題目			
地震時の適切な避難行動を促すための防災啓発と教育手法に関する研究			
審査結果の要旨			
<p>南海トラフ地震などの巨大地震の発生が懸念されている。本研究は地震発生時の適切な避難行動を促すための啓発・教育手法の高度化を図ることを目的としたものである。第2章、第3章では早朝または就寝時に発生した1995年兵庫県南部地震、2013年淡路島地震、2014年伊予灘地震をとりあげ、海岸地区住民を対象にして、地震発生時の初動行動に関するヒアリング調査を実施し、緊急地震速報の聴取状況、揺れている間と揺れが収まった直後の行動と防災意識、地震経験の有無、防災教育の実施状況等との関係を分析し、効果的な防災啓発の必要性について論じた。第4章では国内で行われている語り部活動に注目し、活動内容、その防災啓発効果について分析した上で、こうした活動を継続する上での課題を挙げた。第5章では明治以降の地理教科書及び参考書約150冊に記述された内容を分析し、学校や地理科で災害に関する事項の取り扱いがどのように変化しているかを調べた。これを通して教科内で防災教育を進める上で検討するための基礎資料を提示することに成功している。第6章では防災教育推進校のクロスカリキュラムの分析とヒアリング調査を通して、学校防災マニュアルと防災教育の連携状況、防災教育が教科内でどのように取り組まれているかについて調査している。この結果、防災教育推進校でも防災管理と防災教育とが緊密に連携している状況ではないことを明らかにした。第2章～第6章の結果をもとにして、教科内で効果的に防災教育を進めるための教材の一例として「英災教育」「逃とグツ」の指導計画案を作成し、北淡震災記念館や学校にて試行し、その有効性について示した。</p> <p>以上、本研究は、ヒアリング調査で地震時の住民の初動行動に及ぼす防災教育や災害経験の影響を把握した上で、住民自らの避難行動を促すための防災教育の手法について、語り部活動、地理教科書の分析、さらに防災推進校でのカリキュラム分析を行った上で、新たな防災教育の方法について提案することに成功している。こうした研究は防災教育分野でも進んでいないため、これからの地震防災教育を推進する上で価値のある研究であり、本論文は博士(工学)の学位授与に値するものと判定する。</p>			